

Kusa: (No. 069)  
Ishi no Makura.  
Vol 1--3.

~13  
3854  
1



門へ13  
3854  
1

塘池由末  
一家昔語

石枕春宵抄序

板元

江戸並神明前

和泉屋二兵衛

春の曙紫豆袋の菱川椽の昔繪ふ残り二ツ四ツ二ツ流れて  
夜明鳥のゐるあそびのころ高懸屋がぞうろ傳へる京鶯もせぬか  
之をいふは昔はかくはめられたるものもよむるは草紙の俚言也  
多しとん知れくかすよ一なるよとてかき流すも実の命ははなれ  
流れてかきやとる損料の史記も當の行燈で夜並仕事の  
あかすをいふあそびをいふ杖とほき春の情とやとてあかすも  
壺の人のまゝぬいせよとていふる所をのり取りとてあかすも  
清女納まのなとていふるよとていふるあかすもあかすも  
あかすもあかすも

骨董集

の著述のいふ醒々森ふあかすも

文化 十一年甲戌春三月稿成  
十三年丙子正月新草紙

山東京傳識











○ 鵺田四郎が  
妻 緒絶

忠義の  
ありひの竜神の  
擁護と感む  
此一回の禅味いん  
善て  
即心  
即佛

○ 畑太夫かむと  
鵺田四郎



三歳の女児を  
まふ板のうふ  
まふとた  
一壺の  
黄金と  
海中より  
現れ  
せり

涙の  
愁歎の  
戦人の  
おと

○ かりし  
藻屑村の  
畑太夫

○ 畑太夫  
かむと











○素更の提の  
 たあひのあひ  
 せらぬさるの  
 ありはれはれ  
 これをらひひわ  
 こんどさるい  
 あひのさる  
 せんもさる  
 さのあひ入し  
 ありもふとい  
 わささあひ  
 田ささあひ  
 ああーあひ  
 さうさあひ  
 まさあひ  
 素更の提

素更



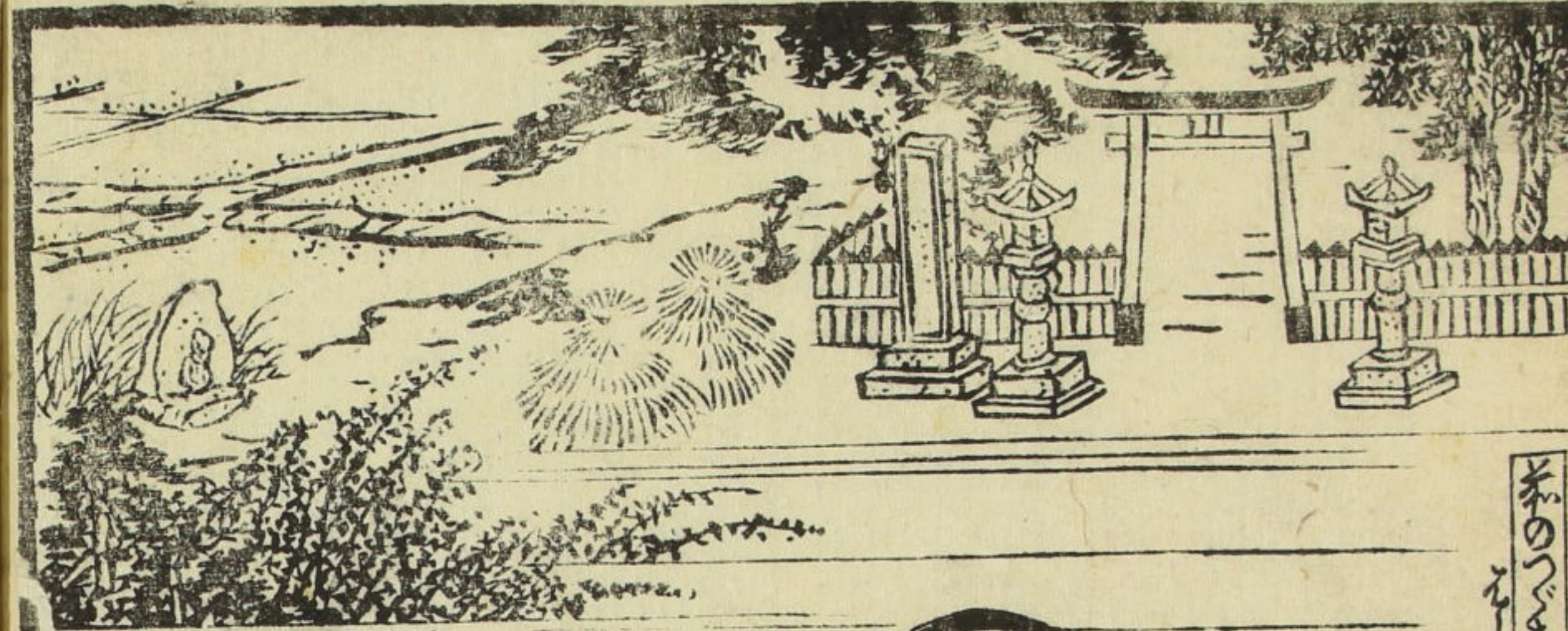
冊下編上



山崎のついで  
 中津のついで  
 千代のついで  
 ...

なごみ  
 さ

おんがら  
 ...



石

米のついで  
 ...

○京傳隨筆  
 ...

古  
 ...



川石のついで  
 ...

おんがら  
 ...



去のついで  
 ...

仕  
 ...













